『国立歴史民俗博物館研究報告』（第151集～第170集）総目次

（正体数字は横組，斜体数字は縦組のページ数）

第151集　共同研究「『三国志』魏書東夷伝の国際環境」（2009年3月）

研究の経緯と成果・課題　東　潮　1-6
『三国志』東夷伝の文化環境　東　潮　7-62
三国期段階における烏丸・鮮卑について――交流と変容の観点から見た――　川本芳昭　63-81
考古遺跡・遺物からみた遼東郡――遼陽・瀋陽地域の後漢・魏・晋墓と副葬土器の基礎編年――　石川岳彦　83-97
考古学から見た夫余と沃沮　宮本一夫　99-127
挹婁の考古学　大貫静夫　129-160
楽浪・帯方郡塼室墓の再検討――塼室墓の分類・編年・および諸問題の考察――　高久健二　161-210
［資料紹介］古代推定船「野性号」による海路踏査――韓国沿岸地域の航海を中心として――　藤口健二　211-284
三韓と倭の交流――海村の視点から――　武末純一　285-306
弥生時代の倭・韓交渉――倭製青銅器の韓への移出――　後藤　直　307-341
卑弥呼の王権と朝貢――公孫氏政権と魏王朝――　仁藤敦史　*343-355*
［資料紹介］
『魏志』東夷伝訳註初稿（1）　田中俊明　*357-438*

第152集　共同研究「古代における生産と権力とイデオロギー」（2009年3月）

共同研究の経過と概要　広瀬和雄　1-16
第1部　古代の権威と権力の研究
大和王権と鎮魂祭――民俗学の王権論：折口鎮魂論と文献史学との接点を求めて――　新谷尚紀　19-48
鉄剣銘「上祖」考――氏族系譜よりみた王統譜形成への一視角――　義江明子　49-77
古代王権と「後期ミヤケ」　仁藤敦史　79-103
古代天皇制における出雲関連諸儀式と出雲神話　水林　彪　105-149
光仁・桓武王権の国境政策に関する一考察　山中　章　151-170
唐代前期律令制下の財政的物流と帝国編成　渡辺信一郎　171-199
第2部　古代・中世イデオロギーの研究
弥生時代における生産と権力とイデオロギー　安藤広道　203-246
古墳の他界観　和田晴吾　247-272
装飾古墳の変遷と意義――霊魂観の成立をめぐって――　広瀬和雄　273-314
遣隋使と礼制・仏教――推古朝の王権イデオロギー――　鈴木靖民　315-327
水穂国の変換と統治理念　西谷地晴美　329-356
日本中世民衆運動の思想――紀州惣国の成立過程――　海津一朗　357-370
第3部　古代接触領域の研究
弥生開始期の集団関係――古河内潟沿岸の場合――　藤尾慎一郎　373-400
続縄文文化における物質文化転移の構造　鈴木　信　401-440
墳墓から見た古代の本州島北部と北海道　藤沢　敦　441-458

第 153 集（2009 年 12 月）

ラマンイメージング装置による伊勢市版歌川派錦絵および版木の色材分析
小瀬戸恵美・落合周吉・増谷浩二・東山尚光・坂本　章　1-19
紀伊徳川家の付家老新宮水野家の御庭焼「三楽園焼」――考古学および
自然科学分析からみたその実態――　水本和美・新免歳靖・二宮修治　21-62
清沢洌のモダンガール論　佐久間俊明　63-85
水田と焼畑――重層の生業戦略からみた複合的な生業――　西谷　大　87-115
百済の都出土の「連公」木簡――韓国・扶餘双北里遺跡一九九八年出土付札――　平川　南　*129-168*
［調査研究活動報告］
弥生時代井堰の年代――福岡県小郡市力武内畑遺跡の年代学的調査――
藤尾慎一郎・今村峯雄・山崎頼人　117-128
国立歴史民俗博物館所蔵の古代史料に関する書誌的検討　渡辺　滋　*169-394*
［資料紹介］
史料研究　『兼仲卿記』紙背文書正応元年二・四・五・六月巻　勘仲記裏文書の会　*395-416*
国立歴史民俗博物館所蔵『顕広王記』承安四年・安元二年・安元三年・治承二年巻
髙橋昌明・樋口健太郎　*417-444*
静岡藩の医療と医学教育――林洞海「慶応戊辰駿行日記」の紹介を兼ねて――　樋口雄彦　*445-489*

第 154 集　共同研究「愛媛県上黒岩遺跡の研究」（2009 年 9 月）

序文　春成秀爾　I
例言　III
目次　V
第 1 部　研究の概要　1
第 1 章　研究の目的と経過　小林謙一・春成秀爾　1-5
第 2 章　研究成果の公表　小林謙一・春成秀爾　5-7
第 2 部　遺跡の環境と調査経過　9
第 1 章　遺跡の立地　小林謙一　9
第 2 章　自然環境　橋本真紀夫・矢作健二　9-16
第 3 章　周辺の遺跡　兵頭　勲　16-22
第 4 章　発掘調査の経過　阿部祥人・小林謙一　23-36
第 5 章　層位　小林謙一・小林尚子　37-41
第 6 章　第 2 岩陰の現状　小林謙一　42
第 3 部　出土遺物　43
第 1 章　土器　43
1　1 群土器　小林謙一　43-59
2　2 群土器　小林謙一　59-63
3　3 群土器　兵頭　勲　64-98
4　4 群土器　遠部　慎　98-119
5　5 群土器　遠部　慎　120-123
6　6 群土器　山崎真治　124-126
第 2 章　石器　綿貫俊一　127-300
第 3 章　石偶・線刻礫　春成秀爾　301-312
第 4 章　装身具　春成秀爾　313-318
第 5 章　骨器・鹿角製品・貝刃　佐藤孝雄・吉永亜紀子　319-324

第６章　脊椎動物遺体　姉崎智子・吉永亜紀子・佐藤孝雄・西本豊弘　325-342
第７章　人骨　343
　1　縄文早期人骨　中橋孝博・岡崎健治　343-388
　2　縄文早期未成人骨　岡崎健治・中橋孝博　389-406
第４部　分析・考察　407
第１章　岩陰の形成過程と遺跡の堆積環境　橋本真紀夫・矢作健二　407-411
第２章　上黒岩遺跡１群土器　小林謙一　412-420
第３章　上黒岩遺跡出土繊維土器のレプリカ法による観察　丑野　毅　421-427
第４章　上黒岩遺跡出土石器　綿貫俊一　428-477
第５章　上黒岩遺跡出土石器石材　橋本真紀夫・矢作健二　478-484
第６章　上黒岩遺跡の石偶・線刻礫と子安貝　春成秀爾　485-501
第７章　上黒岩遺跡出土の赤色物　志賀智史・本田光子　502-503
第８章　上黒岩遺跡の炭化材・貝類の炭素 14 年代測定　小林謙一・遠部　慎　504-510
第９章　上黒岩遺跡の押型文土器の炭素 14 年代測定　遠部　慎　511-523
第５部　研究の成果と課題　春成秀爾　525-547
英文要旨　549-567
写真図版　569-620

第 155 集　「旅―江戸の旅から鉄道旅行へ―」（2010 年 3 月発行）

刊行にあたって
旅日記にみる近世末期の女性の旅――「旅の大衆化」への位置づけをめぐる
　一考察――　山本志乃　*1-19*
庄内藩江戸勤番武士の行動と表象　岩淵令治　*21-58*
江戸市民と葛西金町村の半田稲荷　加藤　貴　*59-85*
書物と寺社参詣――旅の往来物の分析から――　原　淳一郎　*87-107*
旅行案内書の成立と展開　山本光正　*109-136*
近代おみやげ考――東海道を中心に――　鈴木勇一郎　*137-149*
明治・大正期の西宮神社十日戎　平山　昇　*151-172*
二〇世紀における鉄道不在地域の観光地化過程――長野県戸隠をめぐって――　原山浩介　413-431
［研究ノート］
明治三～四年葛飾県鬼越村見張所記録の分析と紹介　池田真由美　*173-314*
［資料紹介］
史料紹介―道中日記史料と民俗――富士参詣日記をめぐって――　西海賢二　*315-331*
文献目録―旅・巡り・遊行関係文献目録補遺　西海賢二　*333-412*

第 156 集　共同研究「人文・自然景観の開発・保全と文化資源化に関する研究」（2010 年 3 月発行）

共同研究の概要と経過　青木隆浩　1-6
台湾 921 集集地震を引き起こした活断層の保存とその経緯　松多信尚・西川由香　7-37
サステナブルな文化資源としての記憶？――トルコにおける地震の記憶から――　木村周平　39-56
市民活動を通じて被災地域に構築される新たな災害文化　廣内大助　57-70
佐世保市における軍港景観の文化資源化　山本理佳　71-96
工場の立地と移転にみる景観の意味づけの変化　香川雄一　97-121
近代日本における人文景観を中心とした「空間」の保存と活用の歴史的展開
　――文化財保護制度を中心として――　才津祐美子　123-135

熊野の観光地化の過程とその表象　神田孝治　137-161
「フィステーラ＝ムシーアの道」（サンティアゴ巡礼路）と「死の海岸」の遺産化に関わる人びと――地域文化コーディネーターの活動と役割――　竹中宏子　163-184
世界遺産登録を契機に生まれた新しい宗教文化――春日大社における春日山錬成会の活動から――　川合泰代　185-199
「宗教」の資源化・商品化・再日常化――巡礼ツーリズム，及びその地域的展開からみた「生活」論としての宗教研究試論――　門田岳久　201-243
文化財保存の広域化における現状と諸問題――滋賀県の文化的景観をおもな事例として――　青木隆浩　245-264
［研究ノート］
災害関連景観を用いた防災教育――石川県手取川流域の事例――　青木賢人　265-276
洪水常襲地域における災害文化の現代的意義　長尾朋子　277-286
「日光の社寺」にみる世界遺産登録とその課題　皆川義孝　287-299
［調査研究活動報告］
小規模な町における廃棄物処理システムの文化資源化プロセスに関する一考察――徳島県上勝町を事例に――　室伏多門　301-313

第 157 集　共同研究「中・近世における生業と技術・呪術信仰」（2010 年 3 月発行）

共同研究「中・近世における生業と技術・呪術信仰」の経過と討議内容　井原今朝男　*1-12*
第Ⅰ部　内海と生業と技術
内海としての紀伊水道　菱沼一憲　*15-30*
中世権門寺社の材木調達にみる技術の社会的配置――中世前期を中心に――　高橋一樹　*31-50*
中世海村の生業暦　春田直紀　*51-82*
湿地における荘園・村落と「生業」――平安～江戸前期の葦と菱――　山本隆志　*83-105*
十五世紀中葉における伊勢氏権力構造と被官衆　中島丈晴　*107-129*
第Ⅱ部　技術・呪術・信仰
提供から見た銭貨の呪力　栄原永遠男　*133-157*
中世仏教における呪術性と合理性　平　雅行　*159-173*
肖像表現における言葉と物――似絵の位置づけを巡って――　伊藤大輔　*175-194*
吉田兼倶と吉田神道・斎場所　岡田荘司　*195-209*
第Ⅲ部　民衆知とその到達点
中世における触穢と精進法をめぐる天皇と民衆知　井原今朝男　*213-247*
もう一つの戊辰戦争――江戸民衆の政治意識をめぐる抗争 その１――　奈倉哲三　*249-276*
海と民衆知・個人知　（1 部）服部英雄／（2 部）楠瀬慶太　*277-297*

第 158 集（2010 年 3 月発行）

東京都下宅部遺跡から出土した縄文土器付着植物遺体の分析　工藤雄一郎・佐々木由香　1-26
当麻の系譜　春成秀爾　27-78
炭素 14 年代を用いた粘土帯土器の実年代――泗川芳芝里遺跡の資料を中心に――　李　昌熙　79-105
壱岐島の後・終末期古墳の歴史的意義――6・7 世紀の外交と「国境」――　広瀬和雄　107-141
柳田国男の「生業」研究をめぐる一考察――1910 年代から 1930 年代の論考を中心として――　松田睦彦　143-162
［資料紹介］
大原幽学没後門人の旧幕臣家族回想録――『佐藤家の人びと』の翻刻・紹介――　樋口雄彦　*323-364*

［調査研究活動報告］
日韓青銅製品の鉛同位体比を利用した産地推定の研究　齋藤　努・藤尾慎一郎　163-288
上野和男先生を送る　山田慎也　289-291
上野和男年譜・著作目録　293-304
山本光正先生を送る　久留島　浩　305-307
山本光正年譜・業績目録　309-312
吉岡眞之先生を送る　仁藤敦史　313-315
吉岡眞之年譜・業績目録　317-322

第159集　「平田国学の再検討（四）」（2010年3月発行）
人名索引　3-129
書名索引　131-156
「科研報告書」「平田篤胤関係資料目録」ページ対照表　157-162

第160集（2010年12月発行）
藤原京の条坊施工年代再論　林部　均　1-28
山で木を切り，炭を焼く――ある炭焼きと薪炭林のかかわり史――　吉村郊子　29-72
［研究ノート］
旧高松宮家伝来東山天皇宸翰と宝永改元――下光の制度的位置――　野村　玄　*189-205*
［資料紹介］
中世禁裏の宸筆御八講をめぐる諸問題と『久安四年宸筆御八講記』
井原今朝男・國學院大学院生ゼミグループ　*207-228*
［調査研究活動報告］
国立歴史民俗博物館蔵古文書・古典籍料紙の調査　宍倉佐敏　*229-267*
歴博国際研究集会「日韓先史時代の集落研究」開催報告　藤尾慎一郎・李　昌熙　73-188

第161集　共同研究「宮座と社会：その歴史と構造」（2011年3月発行）
共同研究「宮座と社会：その歴史と構造」の概要　上野和男　*1-12*
トウヤ祭祀と宮座　八木　透　*13-37*
宮座研究の歴史と現在――概念・当屋制・変化――　上野和男　*39-60*
肥後和男宮座論の再検討　市川秀之　*61-75*
宮座の乏少地域の東北地方の一事例――東湖八坂神社祭統人行事の場合――　稲　雄次　*77-87*
近江三上の宮座にみる歴史と伝承――公文と座をめぐって――　真野純子　*89-150*
宮座研究における近江の位置――宮座論の形成と展開における滋賀県下事例の意義について――　橋本　章　*151-163*
郷祭の現在　小澤輝見子　*165-202*
座講の開放性と閉鎖性――和歌山県橋本市の事例――　森本一彦　*203-223*
村落社会と農村芝居――京都府福知山市北部地域を中心に――　斉藤利彦　*225-245*
株座が維持されること――南丹市園部町竹井の宮衆の地位をめぐって――　大野　啓　*247-262*
岡山県における宮座の変質と展開――新見市高瀬の事例を中心に――　崔　杉昌　*263-293*
備後国杭荘における名主座について　薗部寿樹　*295-315*
山口県防府市域の当屋制　市川秀之　*317-351*
北部九州の宮座――ジガン・ジンガを中心として――　段上達雄　*353-401*
［研究ノート］

箆岳座行事覚書	関口　健	*403-421*
行為にあらわれた宮座――頭人差定・頭渡しの意義――	真野純子	*423-434*

第 162 集　共同研究「日本歴史における水田環境の存在意義に関する総合的研究」(2011 年 1 月発行)

「水田文化」の提唱――共同研究「日本歴史における水田環境の存在意義に関する総合的研究」の経過と今後の展望――	安室　知	1-7
Ⅰ　水田の中の“自然”		
ホタルにとって水田とその付随施設はどのような環境か？	大場信義	11-31
水田利用鳥類とその保全に関する取組と課題	大畑孝二	33-47
コイ科魚類咽頭歯遺存体から見える先史時代の漁撈と稲作との関係に関する一考察	中島経夫	49-63
Ⅱ　“文化”としての水田		
明清時期雲南省石屏盆地における漢人移民の耕地開発――官による水利事業と科挙合格者の増加を中心として――	西川和孝	67-97
［研究ノート］野壺の民俗考古学	角南聡一郎	99-121
民俗分類としての田畑の筆名――命名の基準と空間単位――	今里悟之	123-139
近世・近代史料による琵琶湖のエリ発達史の再検討	佐野静代	141-163
水郷のポリティクス――河北潟東北岸域における耕地整理事業の導入とその史的背景――	大門　哲	165-221
機械化転換期における稲作技術の多様化とリスク――秋田県大潟村を事例に――	渡部鮎美	223-238
ふるさと資源化の新展開	山下裕作	239-270
ドジョウずしが語るもの	日比野光敏	271-295
「百姓漁師」という生き方――漁村類型としての「半農半漁」批判――	安室　知	297-322
「百姓漁師」と「漁師百姓」――海付きの村の生業複合と水田稲作――	安室　知	323-343

第 163 集(2011 年 3 月刊行)

陶質土器の観点からみた初期須恵器の年代	金　一圭	1-62
荒瀬豊の思想史研究――ジャーナリズム批判の原理――	根津朝彦	63-98
古代宮都と郡山遺跡・多賀城――古代宮都からみた地方官衙論序説――	林部　均	99-131
古墳出現期の炭素 14 年代測定	春成秀爾・小林謙一・坂本　稔・今村峯雄・尾嵜大真・藤尾慎一郎・西本豊弘	133-176
下野地域の後・終末期古墳の歴史的意義――6 ～ 7 世紀・東国統治の一事例――	広瀬和雄	177-242
日本古代『論語義疏』受容史初探	髙田宗平	*265-292*
［研究ノート］		
『本朝皇胤紹運録』写本の基礎的研究	小倉慈司	*293-312*
［資料紹介］		
『出陣次第』――戦国時代の戦陣故実――	小島道裕・マルクス･リュッターマン	*313-342*
［基盤研究：資料の高度歴史情報化と資料学的総合研究］		
明治地籍図の集成的研究		*343*
口絵		*343-358*
共同研究「明治地籍図の集成的研究」の概要と経過	青山宏夫	*359-362*
税務大学校税務情報センター所蔵の明治前期作成地籍図	三河雅弘・川名　禎	*363-383*
新潟県の明治初期地籍図――北蒲原郡の地租改正地引絵図を中心に――	高橋一樹	*385-392*

佐渡地区における地籍図の所在状況――小泊区有文書を例として――　田中　聡　*393-396*
佐渡市所管地押調査更正地図の調製状況とその特徴　堀　健彦　*397-411*
滋賀県の地籍図　河崎幸一　*413-426*
和歌山県における明治前期地籍図の保存状況　額田雅裕　*427-438*
香川県の明治前期地籍図　木下晴一　*439-444*
大分県の地籍図　櫻井成昭　*445-459*
大分県豊後国地域の明治期地籍図――壬申地券地引絵図・地租改正地引絵図を中心に――　岡村一幸　*461-468*
杉山晋作先生を送る　上野祥史　243-245
杉山晋作年譜・業績目録　247-250
安田常雄先生を送る　樋口雄彦　251-252
安田常雄年譜・業績目録　253-264

第164集　共同研究「東アジアにおける多様な自然利用―水田農耕民と焼畑農耕民―」

（2011年3月発行）

共同研究の概要と経過　西谷　大　1-6
野生植物と栽培植物の境界と生業との関係性　篠原　徹・西谷　大　7-33
者米谷の生業複合体からみた市場メカニズムの生起　西谷　大　35-62
鵜飼い漁をめぐるポリティカル・エコロジー――中国・長江中流域における漁場面積の減少と漁師たちの対応――　卯田宗平　63-87
市場経済化のなかの可食野生動物利用――中国雲南省国境地帯のハニ族の食生活からみる生業戦略――　葉山　茂　89-120
野生植物利用に関する知識変動と近代化の影響――中国海南省リー族の村を事例として――　戸松あかり　121-157
［研究ノート］
雲南省者米谷における土地利用パタンの空間情報科学分析　梅崎昌裕・西谷　大　159-176

第165集　共同研究「日本における民俗研究の形成と発展に関する基礎研究」（2011年3月発行）

共同研究「日本における民俗研究の形成と発展に関する基礎研究」の構想・経緯・成果　小池淳一　*1-9*
第Ⅰ部　学史研究の可能性～方法と射程
近代日本民俗学史の構築について／覚書　佐藤健二　*13-45*
雑誌と民俗学史の視角――石橋臥波の『民俗』と佐々木喜善の『民間伝承』――　小池淳一　*47-62*
知識と可視性――文化人類学と民俗学における「目で見る方法」――　川田牧人　*63-80*
柳田国男と「事大主義」――同時代の言説空間における意味の特質――　室井康成　*81-96*
第Ⅱ部　人と場，交流の力
『郷土趣味』から『民俗芸術』へ――竹内勝太郎論にむけて――　真鍋昌賢　*99-116*
石黒忠篤と民俗学周辺――郷土会での活動を中心に――　和田　健　*117-139*
拝啓　新村出様――柳田国男書簡からみる民俗学史断章――　菊地　暁　*141-172*
第Ⅲ部　術語と概念の地平
近代における民謡の成立――富山県五箇山地方「こきりこ」を中心に――　川村清志　*175-204*
マイノリティをめぐる「語彙」と「文脈」――芝正夫と「福子」――　山田厳子　*205-224*
民俗学における競技の対象化に関する一考察――近世以降の素人相撲をめぐる競技体系の近代化から――　井上宗一郎　*225-249*

柳田国男と芸能研究，柳田国男の芸能研究　松尾恒一　*251-264*
［研究ノート］
山村調査，海村調査における葬制の位置づけとその目的　山田慎也　*265-277*
禁忌と制裁――柳田国男が鈴木棠三に求めたもの――　常光　徹　*279-286*
第Ⅳ部　資料と証言
［資料紹介］
昔話の語り手と聞き手　武田　正　*289-301*
口承文芸調査の五〇年――関敬吾・鈴木棠三両先生の書簡に導かれて――　佐々木達司　*303-315*
「肥前五島遊記」解説　鶴見太郎　*317-337*
学問で国を済ふ日――倉田一郎のもとに残された柳田國男の手紙と葉書――　戸塚ひろみ　*339-360*
柳田國男の著作・著作収録書 書誌　田中正明　361-446

第 166 集　共同研究「紀州徳川家伝来楽器コレクションの研究」（2011 年 3 月発行）
共同研究の経過と概要　高桑いづみ・日高　薫　*1-5*
紀州徳川家伝来の龍笛・能管について　高桑いづみ　131-152
紀州徳川家伝来の琵琶について　薦田治子　153-187
紀州徳川家伝来楽器の箏について　野川美穂子　189-210
紀州徳川家伝来の雅楽譜について――付　増補改訂資料図録 3 楽譜の部――
遠藤　徹・清水淑子・前島美保　*7-80*
「西浜御殿舞楽之図」にみる雅楽の表象――徳川治宝における雅楽の意味と機能――
水野僚子　*81-104*
［研究ノート］
篳篥・龍笛・能管・高麗笛・神楽笛のＸ線透過像　永嶋正春　211-246
文化財としての古楽器の調査研究と問題点　日高　薫　*105-113*
［資料紹介］
紀州徳川家伝来楽器付属文書翻刻・補遺　小代　渉　*115-130*

第 167 集（2012 年 1 月発行）
春秋戦国期の燕国における初期鉄器と東方への拡散　石川岳彦・小林青樹　1-40
瓦からみた 7 世紀の日羅関係についての予察　高田貫太　41-65
東京湾岸・「香取海」沿岸の前方後円墳――5 ～ 7 世紀の東国統治の一事例――　広瀬和雄　67-112
鉄道利用の魚行商に関する一考察――伊勢志摩地方における戦後のカンカン部隊と
鮮魚列車を事例として――　山本志乃　*127-142*
［研究ノート］
房総半島における非在地系土器について――縄紋時代中期後葉の曽利式系土器の
あり方――　大内千年　113-125
学制期諸県に及んだ静岡藩小学校の影響　樋口雄彦　*143-167*

第 168 集 「マンローコレクション研究―写真・映画・文書を中心に―」（2011 年 11 月発行）
研究の概要　内田順子　1-8
写真・映画の資料化に伴う諸問題――マンローコレクションを対象に――　内田順子　9-31
伝統的知識の公開と「社会関係資本」としての活用――UK にあるマンロー
書簡の社会ネットワーク分析を中心に――　手塚　薫　33-62
マンロー・テクストはなにを「返還」するのだろうか――マンロー関係資料デジ

タル化プロジェクトの今日的意義―― 出利葉浩司 63-82
［研究ノート］
マンロー関係資料研究・活用上の地域的諸課題――北海道平取地域におけるアイヌ文化継承の現状に即して―― 吉原秀喜 83-118
ニール・ゴードン・マンローの1930年代アイヌ民俗誌映画への取り組み――ウウェポタラ（悪霊払い）の記録を中心に―― 岡田一男 119-150
『アイヌ写真帳』の比較――平取町立二風谷アイヌ文化博物館所蔵本と国立歴史民俗博物館所蔵本―― 森岡健治 151-196
［資料紹介］
国立歴史民俗博物館所蔵の「北海道沙流川アイヌ風俗写真」 内田順子 197-263
北海道開拓記念館所蔵のランタンスライド 手塚　薫・出利葉浩司 265-284
［調査研究活動報告］
「マンロー関係資料デジタル化プロジェクト」におけるデジタル化作業の過程 城石梨奈 285-299

第169集　共同研究「身体と人格をめぐる言説と実践」（2011年11月発行）

共同研究の目的と経過 山田慎也 1-6
養父母になった国際養子たち――スウェーデン，デンマークの事例から―― 出口　顯 7-28
流動的で相互作用的な身体と自己――日本の美容整形の事例から―― 川添裕子 29-54
現代社会における「生きづらさ（苦悩）」の病いと生の技法――北海道〈浦河べてるの家〉の「当事者研究」と精神保健福祉の取り組みから―― 浮ヶ谷幸代 55-82
身体の実践，人格の関係性としての「死者供養」 池上良正 83-106
葬送と肉体をめぐる諸問題 長沢利明 107-136
遺影と死者の人格――葬儀写真集における肖像写真の扱いを通して―― 山田慎也 137-166
移動に住まう人びとはどこに埋葬されるのか――東アフリカ・ナイロート系アルル人のティポ，ジョク，アビラをめぐって―― 田原範子 167-207
ある遺品整理の顛末――ウガンダ東部トトロ県A・C・K・オボス＝オフンビの場合―― 梅屋　潔 209-240
「人格崇拝」の射程と再配置――「不法占拠」地域の補償をめぐって―― 金菱　清 241-269
自己を発見する賤民と百姓 木下光生 *271-290*
耳のフォークロア――身体感覚の民俗的基礎―― 小池淳一 *291-302*
思想を善導する環境設計――細野雲外『不滅の墳墓』を読む―― 土居　浩 *303-323*
江戸の墓誌の変遷 谷川章雄 *325-351*
近世大名家の葬送儀礼と社会 岩淵令治 *353-428*

第170集（2012年3月発行）

国産万年筆研究の課題 小池淳一 1-18
多摩川流域の後・終末期古墳――7世紀における東国地域の一動態―― 広瀬和雄 19-67
［研究ノート］
古墳時代の日朝関係史と国家形成論をめぐる考古学史的整理 高田貫太 69-86
［資料紹介］
史料紹介――田中本「実隆百首并後成恩寺殿三十三回忌追善一品経和歌」紙背文書―― 高橋一樹 *97-117*
第151集～第170集総目次 87-95